



佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(2)

【概要】

令和2年7月17日(金)に、不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と工学系研究科及び先進健康科学研究科の大学院生、理工学部機能物質化学科の学生らが本年度2回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲の芽生えを目的に行なっています。

令和2年度の第2回理科実験教室は、予定日が大雨で休校措置となったため1週間遅れの令和2年7月17日(金)に、工学系研究科システム創成科学専攻と先進健康科学研究科先進健康科学専攻の大学院生と、理工学部機能物質化学科の学部生が、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、「炎の色ってどんな色？」と題して、炎色反応実験とろうを使った工作を行いました。

まず、白金線を銅やカリウムの金属塩の溶液に浸した後にアルコールランプにかざして、炎が金属元素特有の色を示す炎色反応の様子を観察しました。炎が燃えているのではなく、燃えている現象として炎があり、花火は金属を利用した化学現象の一つであることを説明しました。その後はろうをオリジナルアロマキャンドルにする工作実験を行いました。缶に入れたろうを融点以上の湯煎で溶かした後に削ったクレヨンで着色し、アロマオイルを混ぜた後に、アルミホイルで作った自作の型に流し込んでアロマキャンドルを作りました。真剣な表情でアロマオイルを選んだ生徒たちの作品は、大人の方が驚くような出来栄の淡い色が美しい作品となりました。ろうが固まると体積が縮むことを話す生徒がいるなど、子供達自身の観察力での気づきを感じる日となりました。



「理科実験教室」の様子